

私は、未来の三重県をここに住む誰もが安心して自分らしく過ごせる場所にしたいです。三重県には伊勢神宮や豊かな海など魅力がたくさんあります。しかし、私が一番大切にしたいものは、そうした観光資源以上に、昔からこの土地で受け継がれてきた人の温かさです。

三重県にはおかげさまという言葉が深く根付いています。今の自分があるのは、周りの人や自然に支えられているからだという感謝の気持ち。昔、お伊勢参りに来た人を地域の人々が温かく受け入れたという話を聞いたことがあります。知らない人でも温かく受け入れる精神は、この時代でも大切に、繋いでいくものだと感じています。

私が駅にいたとき、大きな荷物を持った外国人の観光客に道を聞かれました。私は知らない人と話すのが苦手で、一瞬ためらってしまいました。でも困っているのを放っておかず、知っている言葉を組み合わせて案内をしました。最後に相手の方がお礼を言ってくれたとき、緊張が解けるのと同時に自分の行動で誰かの役に立ったという喜びを感じました。

これからの三重県は、お年寄りや障がいのある人、海外から来た人など多様な人々が暮らしていくことになります。大切なのは、誰かが困っているときに自分には関係ないと目をそらさないことだと思います。ここにいてもいいんだという安心感があれば、人は新しいことに挑戦したくなり、一歩踏み出す勇気が持てるはずです。特別な知識や技術がなくても隣の人が声を掛ける。その積み重ねが優しい社会を作るのだと考えています。

未来の三重県を作るのは私たちです。大きな変化を一度に起こすのは難しくても、相手の気持ちを想像し、寄り添うことは今日からでも始められます。誰もが安心して暮らせる三重県を形にしていきたいです。